

会 議 録

会議の名称	平成20年度 第3回文化財審議会
開催日時	平成20年12月9日(火) 14時00分～16時00分
開催場所	難波田城資料館 講座室
出席者	渋谷一夫委員、関健二委員、木藤隆太郎委員、大澤綾委員、水宮恒委員、 山田友昭委員、横山亮英委員 事務局（寺沢生涯学習課長、会田副課長、加藤主査）
欠席者	なし
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 報告 <ol style="list-style-type: none"> (1)入間東部地区文化財保護連絡協議会行事報告 (2)資料館事業について (3)新河岸川広域景観プロジェクトについて (4)その他 2. 協議 <ol style="list-style-type: none"> (1)指定文化財の保存管理について (2)その他 3. 現地研修 難波田城資料館 秋季企画展「稲作の道具」等
会議資料	<ol style="list-style-type: none"> ①文化審議会文化財分科会企画調査会報告書の概要 ②歴史文化基本構想と関連文化財群等の関係例
公開・非公開	公開（傍聴人 0人）
会議録確認	渋谷一夫委員

会議内容

あいさつ（議長）

1. 報告

(1) 人間東部地区文化財保護連絡協議会行事報告

委員：文化財は現地を見ないと実感できない。今回の津久井城では縦堀があったが、通常の城館跡ではありえないものだが、地形を考慮すると理解することができる。

委員：遺跡を保護するために巨額な経費をかけて遊歩道整備をしていた。国・県の建設土木関係機関との連携により実現できたもので、文化財サイドだけではできないことも可能にしている。こうした手法も文化財を保護する上では重要である。

委員：さらに行政サイドだけではなく、地域の住民を取り込む手法も参考になった。例えば中学生による発掘調査をおし、地域の歴史を世代に受け継がせようという取り組みは参考になる。

委員：地域が中心になって文化財を保護する動きが必要である。本市においても参考となる取り組みである。

(2) 資料館事業について

水子貝塚資料館事業について

(3) 新河岸川広域景観プロジェクトについて

事務局：県（県土整備部）で実施しているものだが、文化財とも密接に関連する事業である。

委員：県の広報でも見ている。これまで文化財は点でしかとらえられていなかったが、線や面としてとらえるためには富士見市の文化財部局からも提言できるよい機会である。

(4) その他

1/24（土）生涯学習関係5委員会合同研修会について

2. 協議

(1) 指定文化財の保存管理について

事務局：昨年の会議において、国の文化審議会企画調査会の中間報告を報告したが、最終報告が文化庁から報告された。

委員：以前にこの会議でも配布したが新聞でも取り上げられていた。文化財を総合的に把握するという「関連文化財群」という考え方は、これまで単体としていた文化財を地域全体でとらえていこうという国の考えである。それには地域の方々の協力ができないことが多い。

委員：社会全体で文化財を継承していくためには、行政と地域の連携が必要である。

委員：先程の新河岸川広域景観プロジェクトのような取り組みは、文化財サイドとしては有効である。

委員：今日は概要報告を見ただけなので、国の動向を注視しながら富士見市でできる取り組みについて、次回以降の会議で研究協議していきたい。

3. 現地研修（難波田城資料館 秋季企画展「稲作の道具」等）

委員：かつては当たり前前に農家にあった道具ばかりであるが、今はまったく使われなくなってしまった。今の

人達に知ってもらうにはよい企画である。

委員：教科書だけではわからないものが実物として展示できている。よい取り組みであるが、常に動かせるものがあるとよい。

事務局：一部の道具については、体験学習用に使用している。

次回会議 3月10日（火） 午後3時～ （予定）

